

平成 29 年 (2017 年) 11 月 24 日
 長野県危機管理部消防課消防係
 (課長) 花岡 徹 (担当) 田中達也
 電 話 : 026-235-7407 (直通)
 026-232-0111 (代表) 内線 5212
 F A X : 026-233-4332
 E-mail : shobo@pref.nagano.lg.jp

消防防災航空体制の再構築について

1. 事故後の取組

3 月 事故後の対応等
 ~ 4 月 " "
 5 月 合同追悼式の開催 (5/30)
 6 月 あり方検討会 (6/20)
 ~ 作業部会 (4 回)
 9 月 あり方検討会 (9/20)
 11 月 " (11/15)

委員
 県、市町村、消防本部
 オブザーバー
 総務省消防庁、東京消防庁、県警、自衛隊OB

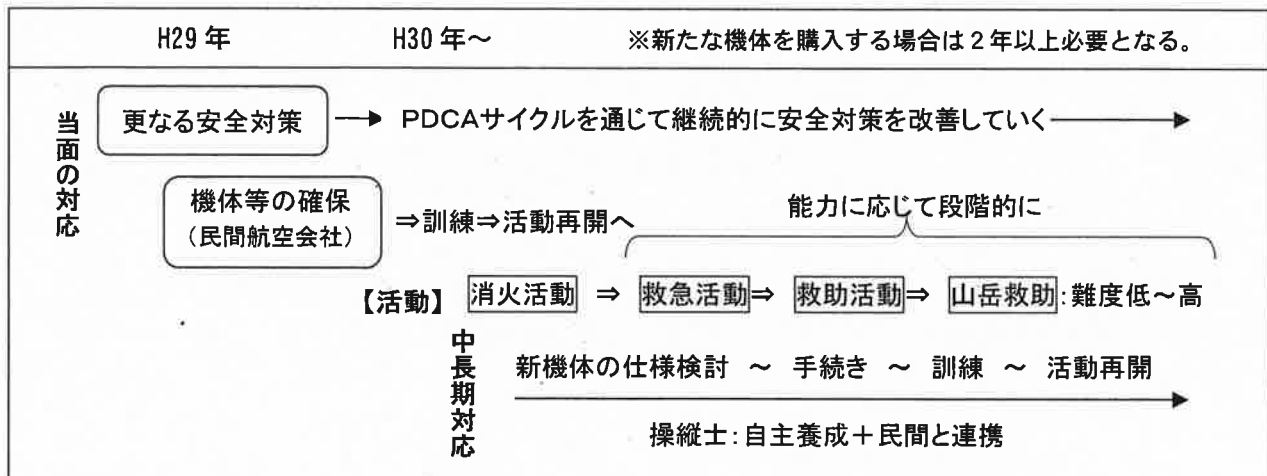
隣県、警察、自衛隊による受援状況 H29.3.6 ~11.20 現在

	隣県	警察	自衛隊	回数
救急	1	0	0	1
救助	12	8	0	20
消火	6	0	2	8
計	19	8	2	29

2. 「あり方検討会」での検討結果

- ① **運航再開の時期** 来春の林野火災の消火活動から段階的な再開を目途とする。
- ② **更なる安全対策** 事故となり得る要因を幅広く洗い出して対策案を示す。
 - ダブルパイロット制の導入、2名以上によるチェック体制
 - 安全運航に関する組織マネジメントの強化
 - チーム力強化研修、安全運航機材整備、健康ケア計画策定 等
- ③ **当面の運航体制** 民間航空会社から機体の借上げと操縦士等の派遣により対応。
- ④ **中長期的な対応** 新規ヘリコプターは購入。継続的な操縦士の確保、山岳救助は検討。

検討結果の全体のイメージ



3. 消防防災航空体制の更なる安全対策

全体イメージ

3つの視点で見直し: 1. 対策充実 ⇒ 2. 見える化 ⇒ 3. 継続的な改善

1. 安全対策の充実

事故になり得る要因と安全対策

(1) ヒューマンファクター (組織も含む)

〔組織・体制面〕

- ① 安全運航に関する組織マネジメント強化
- ② 風通しの良い職場づくり (安全運航管理幹設置)
- ③ ダブルパイロット制の導入
- ④ 必ず2人以上による複数チェック体制

〔技術的側面〕

- ⑤ 運航可否判断、運航中止手順の明確化
- ⑥ 隊員の育成計画の作成、技量確認の実施
- ⑦ チーム力の強化に向けた研修の実施
- ⑧ シミュレーターを活用した緊急事態の対処

組織全体で安全管理
(PDCAサイクルで改善)

1人で判断させない
(複数の眼でチェック)

基準等の明確化
教育・訓練強化

(2) 物的不具合・機材未整備

- ⑨ 安全運航に係る機材整備の充実等
(機内カメラ等)

安全機材(設備)
の充実

(3) 体調不良、環境要因、共通・その他

- ⑩ 健康ケア計画、定期的なチェック体制
- ⑪ 寮生活の改善 等

健康管理ケア等

2. 対策の見える化

上記の対策について
「長野県安全運航に関する規定類」
を整備し、内部で明確化
「第三者による評価・助言の仕組み」
を構築し、外部から透明化

3. 継続改善の仕組み



継続的な安全対策の改善へ

4. 検討結果を踏まえた県としての対応

【再開に向けた3つの基本的な考え】

- ① 何よりも「安全第一」を基本とする。
- ② 活動再開は、十分な訓練の実施など下記の手順を経て、安全運航が確認された後に再開する。
- ③ 活動内容も消火活動等からはじめ、救助活動などは消防防災航空体制の能力に応じて段階的に展開。

活動再開に向けた手順（イメージ）

